

2014 年反省文

園芸学研究科 D1 中原恭恵

2014 年 9 月に 3 年半の中国留学を終えて日本に戻ってきました。中国では、空気の汚さや生活環境の悪さの中、できることを自分で考えて運動を継続していました。陸上やトライアスロンのレースにも参加しました。やりたいことが思うようにできない環境に置かれて改めて、競技を本気でやりたいという思いに気づき、2020 年五輪開催地が東京と決まったとき、競技生活の最大目標として東京オリンピックに出場と決心しました。2020 年東京オリンピックは、トライアスロンの 3 種目で自分が得意とする自転車（ロードレース）競技で目指します。来シーズンから、自転車競技レースにシフトしていきます。中学・高校と陸上で跳躍をやってきて、ブロック大会止まりで終わり芽も出ませんでした。千葉大学に入って、トライアスロン競技を始めて、ラン強化のため陸上部に所属させていただき長距離トレーニングをしてきました。トライアスロン競技ではインカレ 7 位と学生レースでも結果が出て、学部を卒業してから一時期ナショナルチームに入ることができ、芽が出たけれど、水泳が伸びず、オリンピックレベルまで到達することは難しいと感じていました。そして、大学院に入り競技から離れて中国へ旅立ちました。

日本に戻ってきて今、ドクターでありながらも、競技のためのトレーニングに重きを置いた生活を始めたところです。ドクターを中退して競技にかけようと思ったりもしたけれど、ドクター 1 発目の学会投稿した論文を落としてしまった今、指導教授が「2020 を目指す中で博士を取れるように頑張ってみなさい。勉強は気分転換になるでしょう？」と理解してくださったので、頑張ろうと思いました。

私にとって、ちばりくは自分を育ててくれた場所だと思っています。小宮山先生をはじめとして、同級生がトライアスロン競技とのかけもちを理解してくれて支えてくれて、やってくることができました。私は陸上競技の結果ということに対しては学部のときから貢献できていません。その分、みんなが試合で頑張ることを応援したいと思ってやってきました。今、28 歳になって、こうしてまたちばりくに戻ってきて、後輩たちに伝えたいことは、仲間を大切にしてほしいということです。陸上に対して各自いろんな取り組み方があると思います。ちばりくでは、その取り組み方をお互い理解する姿勢があると私は感じます。苦しい練習、悔しい試合、ベストが出た瞬間、いろんな出来事を共有してきた仲間は、一生の存在になるはずです。仲間感謝し、速いから強い人でなく、人として強い人になってほしいと思います。

今年は、私自身はちばりくの活動にほとんど参加できませんでした。来年から自転車競技にシフトしていくものの、陸上トレーニングは続けるほうが良いと言われているので、走り続けます。部活には、曜日を決めて週 1 回は参加できるようにしていきたいと思います。陸上部の試合にはなかなか行けなくなるかもしれませんが、駅伝大会、茨大戦には参加していきたいと思います。

若い後輩たちが頑張っている姿勢は、私も元気をもらいます。ちばりくに関わらせていただけることに感謝し、目標に向けて努力していきます。